

令和3年度
北辰大学 第4回学習会
●○● 事業報告 ●○●

日時 令和3年8月18日(水) 10:00~11:25
場所 五所川原市中央公民館・大ホール
参加人数 95名
演題 「地球温暖化の防止と森林の役割」
講師 青森県農林水産部 林政課 企画グループ 主査 藤原 遥 氏



大気中には温室効果ガスと呼ばれる水蒸気、二酸化炭素、メタンなどがあり、太陽からの光は地球の大気を通して地面を暖め、そこから放射される熱を温室効果ガスが吸収して大気を暖めています。もし、これらの温室効果ガスがなければ、地球の気温はマイナス19℃くらいになってしまうのだそうです。地球温暖化とは、産業活動が活発になり、温室効果ガスが大量に排出されて大気中の濃度が高まって熱の吸収が増えたことにより、気温が上昇し始めたことによるものだそうです。このまま対策を取らないと、気温はさらに上昇し、2100年末には最大で4.8℃上昇すると予測されているそうです。

森林の働きについて、木は二酸化炭素を吸収して酸素をはき出すことで成長することから、地球温暖化の防止に貢献しています。吸収量は、木の種類、年齢によって異なるのとこと、スギやヒノキなどの人工林は、広葉樹に比べて吸収量が多いのだそうです。また、木も年を取ってくると、人間がご飯を食べる量が少なくなるのと同じく、吸収量も減少するのだそうです。そのため、ある程度年数がたった木は、伐採して利用し、新しく植えるということが重要だということでした。

地球温暖化は、身近に発生している大雨による災害にも深く関わっているということが分かり、有意義な学習会となりました。

